

大道芸アジア月報 2023 年 1 月

vol. 34, no. 1

編集・発行人 上島敏昭

〒165-0025 東京都中野区沼袋 2-31-2

春山荘・東

★大道芸案内

主な大道芸スポット（土・日・祝日など、通年大道芸が見られるポイント）

- 大阪・天保山海遊館広場 <https://www.kaiyukan.com/thv/marketplace/>
- 大阪パフォーマーライセンス <http://www.osaka-performer.com/index.php>
- 名古屋・大須ふれあい広場 ■名古屋 POP UP ARTIST <http://popup-artist.com/index.html>
- しずおか大道芸の街 <http://shimarukai.org/> ■江ノ島大道芸 <https://www.fujisawa-kanko.jp/feature/daidoge.html>
- ヨコハマ大道芸（山下公園、グランモール公園、ジャックモール） <http://daidoge.jp/>
- お台場・デックス東京ビーチ ■みなとみらい東急スクエア ■テラスモール湘南 www.studioeggs.com
- 東京都へブンアーティスト www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/
- 仙台まちくるパフォーマーズ <https://machi-kuru.com/performers>

※新型コロナウイルスの蔓延状況によって実演していない場所もあります。確認の上、お出かけください。

★浅草雑芸団の催し

はるこま七福神めぐり

●1月3日（火）10：00～15：15

◎10：00 多門寺～/10：30 白鬚神社～/11：00 百花園～/11：30 じまん草餅～/11：45 言問団子～/12：00～さくら餅～
/12：15 長命寺～ /12：30 弘福寺

◎13：00 三囲神社～ /13：20 上総屋より向島町内めぐり

◎14：30～15：15 奉納演芸会（弘福寺会館まえ）

開運の「干支福飾り」を頒布します

子供たちの伝統芸能体験：東京芸能ゆうえんちワークショップ&公演

●1月15（日）公演・東京芸能ゆうえんち 会場：イイノホール（霞が関）

浅草雑芸団、江戸里神楽松本源之助社中、二子流東京鬼剣舞、檜立て踊り保存会

入場無料

申込み：03-6804-2660 e-mail geinouws@gmail.com 全日本郷土芸能協会

★今月の大道芸公演

△KYOTO 大道芸祭 2023 <https://www.npokpa.com/KyotoStreetProject/fes2023/> ○ゼスト御池地下街

●1月2（月）3（火）

2（月）：縁、カナルベキノワ、たいが、チムチムサービス、

3（火）：ガンジスシンダスドーダス、リューサー、Rei Iwakura、ASUKA、マスクマスク・マンマン、

両日：シンクロニシティ、リスボン上田、ロッキイ

△尾張万歳 今枝社中

●1月3（火）14：00 名古屋城・本丸御殿孔雀の間

●1月8（日）午前の部 11：00 / 午後の部 14：00 徳川園

△第18回さいたま新都心大道芸フェスティバル https://www.amatias.com/asp/event.asp?e_code=E0000419

○さいたま新都心けやき広場

●1月7（土）8（日）

しょぎょむじょブラザーズ、シルヴプレ、ゼロコ、小林智裕、松鶴家天太、熱血大道芸人ドラマチック・ガマン、performer ZEN、
江戸糸あやつり人形、TOKYO 雑芸芸術団、idio2、エキセントリック吉田、チクリーノ、サンキュー手塚、SUR DE WEAVE、SUKE3 & SYU、
HIBI★Chazz-K、Pere Jovanov、Performer SYO!、Juggler Laby、ココナッツ山本、Asia Gold Pro Wrestling、加納真実、Astric NOVA、
サクノキ、ペン廻しパフォーマーKay、イボッパル書道家ジャッキー太、Witty Look、芸人まこと、EPPAI&マサトモジャ、勇登 BEATS、
3 ガガヘッズ、まる、Yo-Yo Entertainer TOMMY、YoYoPerformer NiA、NOA、CHIKI、NAOKO、しろしろ☆じっかい★、clown ものまる、
ふわっと4、ジャズボーラズ、ブレルナ、聖寿

△新春特選 ニッポンの芸! <https://nigiwaiza.yaf.jp/perform/> ○横浜にぎわい座

●1月15（日）14：00

尾張万歳保存会、柳貴家正楽社中、ほか

入場料：一般¥3200、中学生以下¥800

電話：045-231-2515（横浜にぎわい座）

<https://nigiwaiza.yafjp.org/perform/>

△Gacha Gacha ぱふおーまんす図鑑 <https://www.studioeggs.com/ggpz23/> ○めぐろパーシモンホール小ホール

●1月18(水) 19:00 Aプロ「ほんわかパフォーマンス日和」

進行: マスター&こ〜すけ エディー、松鶴家天太、どん・ぺんた、あいあい、HOOPER MAEP

●1月19(木) 19:00 Bプロ「色とりどりガチャめぐり」

進行: サクノキ CHISHA、みま、プリセット、タラン・ニバキンス、SHOGUN

●1月20(金) 19:00 Cプロ「ヒャクブンハイッケンニシカ図鑑」

進行: 堀江のぞみ 笑うアミーゴス、clown troupe、歩、八幡雄士、YEN TOWN FOOLS

各プログラムとも、前売り¥2900(当日¥2999)

△仏教大学宗教文化ミュージアム公演「祝福芸・万歳〜安城の三河万歳」<http://www.bukkyo-u.ac.jp/facilities/museum/>

○仏教大学宗教文化シアター(京都市右京区嵯峨広沢西裏町5-26)

●1月22(日) 13:30 開演

出演: 安城の三河万歳保存会 演目: 神道三河万歳、三河御殿万歳

入場無料(事前申し込み 120名)

申込み期間 12月12日〜1月14日

申込みはwebで <http://www.bukkyo-u.ac.jp/facilities/museum/>

または、ハガキで。(氏名・フリガナ・住所・電話番号・希望人数を記入) 期間内に到着のこと

△みんぱく民族誌シアター「それでも獅子は旅を続ける」<http://www.minpaku.ac.jp/>

○シアターセブン(阪急十三駅、西口改札より徒歩5分)

●1月22(日) 13:30〜16:00

「それでも獅子は旅を続ける 山本源太夫社中 伊勢大神楽日誌」(神野知恵・山中由里子監督) 上映

解説: 神野知恵、山中由里子、杉浦康博(山本源太夫社中)、司会: 黒田賢治

入場無料(会場参加45名、web配信あり、100組)

受付期間 12月19日〜1月13日

申込み: <http://entry-reservation-event.minpaku.ac.jp>

△伊勢内宮 おかげ横町 伊勢大神楽 <https://okageyokocho.com/main/> ○伊勢内宮 おかげ横町

●1月22(日)

伊勢大神楽講社紀州支部

△お待たせしました!ライブ in 静岡 <https://www.asovivatheater.com/%E5%85%AC%E6%BC%94%E4%BC%81%E7%94%BB> ○あそ viva! 劇場

●1月27(金) 19:30

●1月28(土) 14:00

てのひら、おっとちゃん

前売り¥2000(当日¥2500)

ご予約は ottosaiko@gmail.com

△新春18きつぷ vol.48(ダメじゃん小出の黒く塗れ!) ○横浜にぎわい座のげシャーレ

●1月28(土) 昼の部14:00 /夜の部18:00

入場料: 前売り¥2100(当日¥2600)

電話: 045-231-2515(横浜にぎわい座)

<http://nigiwaiza.yafjp.org/>

若林正の

食って極楽

初めて食べた...

下落合「元氣魯肉飯」

今年ももう師走。若い時分のように新年を迎える浮わつた気分は無い。そろそろ人生の店仕舞いか、とも思う。そんな寂しいことを思うのも三年間続いているコロナのせいかな。あと何回美味いメシを食べるのかなあ……。考えれば色々食い散らかしてきたが、世の中には未だ食してないものが沢山あるなあ。

とか黄昏ていた先日、友人の芝居を観に出かけた下落合で、駅前に面白い店を発見!

「元氣魯肉飯(ルーローハン)」という看板。確か台湾の料理ということは知っていたけど、食べたことは無かった。よし!ならば食おう!

新しい店らしく、こじんまりした店内にお客は三組。ワンオペの店員は現地人らしい。メニューは魯肉飯メインで、唐揚げや野菜等のトッピングで値段が変わる。頼んだのは、山椒ソースがけの魯肉飯大盛り¥980。周りは若いカップルで、唐揚げ付きのを皆食べている。そっちが良かったかな? さて出てきた丼にはほぐした豚肉、煮卵に緑色のペーストが載っている。大盛りにしたのに大して飯は多くないな...まあいいやと食べ始めると、中華スパイスで味付けされた肉やタレが美味で、ピ



リ辛の山椒ソースと相まって飯が進む。思ったよりあっさりで、これならもう一杯いけそうと思ったが、芝居の開演時間も近いのであきらめた。

お初の食べ物だったけど、まあ中華料理の一種という感じで驚きはなかったのが残念。

○まだまだ元気に食うぞ度=∞ワカ



■編み竹おどり・大瀬雅和さん

一な演芸になった。

「編み竹おどり」は、富山県五箇山地方に伝承されたすだれ芸で、そのころは大瀬雅和さんが唯一の伝承者だった。当地は、民謡こきりこの伝承地で、編み竹おどりもその民謡の保存会によって伝承されてきた。『筑子（こきりこ）の起源考』（高桑敬親著、筑子唄保存会刊、昭和45年）によれば、明治38年（1905）、日露戦争の戦勝祝の演芸会に際して、平村（現・南砺市）上梨地区の村上源蔵ほか三人によって復興されたとある。演芸に使用する「すだれ」を編み竹と称し、こきりこ踊りでも使用する楽器「ささら」の一種と考えているという特徴がある。そして「編み竹おどり」と称するように、すだれで器用に形を作るだけでなく、体ぜんたいを使って舞台いっぱいに動き回る。また囃子ことばも「チャクチャクチャクチャク、うチャクチャクチャク」と、よりリズムカルになっている。

なお、その後、神戸市を本拠とする「日本南京玉すだれ協会」と称する団体が、南砺市上梨の白山宮を「南京玉すだれ発祥の地」に認定したという。

○えんぶりの遊戯芸「豊年すだれ」

「豊年すだれ」の和田勇市さんは、民俗芸能「えんぶり」の保存会員で、豊年すだれも、えんぶりの中で演じられる芸能だった。「えんぶり」は、八戸を中心とした南部地方で行われる真冬の民俗芸能で、国指定の無形民俗文化財である。春を前に、雪のなかで田植え仕事の模倣を演じて豊年を予祝する。十人ぐらいで組を作って地域をまわり、家いえを門付けしてあるく。門付けでは、儀式性の高いえんぶり芸を演じたのち、たいいてい、その堅苦しさをほぐすように娯楽性の高い遊戯芸を演じる。儀式芸と遊戯芸がセットなのだ。遊戯芸には、えびす舞、大黒舞、こどもたちによるエンコエンコなどがあり、つぎつぎと、とっかえひっかえ、多彩な演目を繰り出して、お客の目を楽しませる。その遊戯芸の一つとして、伝えられていたのが「豊年すだれ」



■えんぶりで演じられる豊年すだれ

だった。

豊年すだれとセットにして伝えられていた芸に「金輪の曲」もあり、これも玉すだれサミットでは演じてもらった。何本もの金輪が繋がったり切れたりする不思議を見せる芸で、奇術の世界では「チャイナリング」と呼ばれている。しかし、チャイナリングと明らかに違うのは、不思議を強調するのではなく、つなげ方を様々に変えて「四つ目の紋所」「炭焼き小屋」「人力車」「馬のくつわ」「星形かぶと」などに見立てる。見立ての面白さが眼目という点で豊年すだれと一致する。豊年すだれが、竹の道具による見立て芸であるのに対し、こちらは金属の道具による見立て芸である。

「金輪の曲」は、のちに、日本奇術の藤山新太郎さんが、現地取材をされ、さらに独自の工夫をして、お客に金輪の改めさせる手順を加えて再創造され、現在は一門の芸として演じておられる。

○沖縄舞踊の「柳」と対馬の盆おどり「柳おどり」

さらにこの催しの計画で、沖縄舞踊にも玉すだれとほとんど同じ芸能があると、解説の三隅治雄先生に教えていただいた。これが「柳」（「やなじ」と読む）である。琉球古典舞踊のうち、



■沖縄舞踊「柳」

女七踊りといわれる踊りで、女性が花かごにさまざまな道具をいれて登場し、それを採りものにして踊る。その道具の一つが「すだれ」で、これを片手で持って、伸ばし、そして縮める。

琉球舞踊家の川田公子さんに、飛び入りで、その部分を演じていただいた。琉球舞踊ではかなり有名な演目とのことだったが、わたしは沖縄の芸能自体あまり知らず、もちろんこの舞踊も初見。日本の芸能の奥深さを知る、と同時に、我が身の不明を恥じた。



■対馬・曲地区の盆おどり「柳おどり」

その後、平成21年（2009）国立劇場に対馬の盆おどりが出演したおりに、玉すだれが使われるのをみた。これは同島曲地区の盆おどりで、この地区だけで踊られる演目という。「柳おどり」と称するもので、採りものとして「玉すだれ」が使用される。十人以上が二列にわかれて隊形を組み、全員で一緒に、長く伸ばしたり、縮めたり、ゆっくりと動かす。どこから伝わったのか、いつごろからやっているのかと、出演者にうかがったが、「昔からやっている」という以上は、わからなかった。

古典芸能といったとき、その伝承経路がある程度ははっきりしているべきだと、私は思う。さらにいうならば、初めて文献や図版に現れたのが、いつ、なんという書物なのかも重要だろう。玉すだれは、どうもそれがあやふやのようだ。全国玉すだれサミットを計画した段階で、仙助流、編み竹おどり、豊年すだれ、の三つだと思っていた芸系統だが、沖縄舞踊にもあることが知られ、さらにその後、対馬も盆おどりにもあることがわかった。巷間芸能、大道芸能は、始まりも発展も伝承系統もあやふやなものが多い。玉すだれも、ご多分に漏れず、はっきりしないところばかりだ。能楽や歌舞伎、浄瑠璃などの語り物、あるいは落語、講談などの寄席芸のように、体系立てた研究をする時期であろう。